



## 森で見られる主な動植物

この森は用地取得依頼手つかずの状態、コナラ、クヌギ、イヌシデなどの雑木林や、杉林などがあり、また、真竹、東根笹（あずまねざさ）等が繁茂し、人の侵入を拒んでいる状態でした。

森の一部にはかつて湿地帯だったところもあり、雨量によっては水路となり、隣接する池に繋がっています。池にはカワセミが生息し、野鳥も飛来しています。平成22年頃に、地域の特定非営利法人「ちばサイエンスの会」（小・中学校の理科教員による会）によって行われた調査では、貴重な昆虫、両生類、野草などが生息していることが分かりました。

ここで、今でも共生の森で見られる動植物を写真で紹介します。

### 樹 木



#### コナラ

- ・ ブナ科 コナラ属
- ・ 落葉高木 20～25mになる
- ・ 雌雄同株 花は房状に垂れ下がる
- ・ 北海道、本州、四国、九州の丘陵帯～産地帯に分布
- ・ 秋になるとドングリの実をつける
- ・ 木肌は縦にゴツゴツしている
- ・ 葉っぱは葉先の方が広く、周りは大きなギザギザ
- ・ 千葉県雑木林を代表する3種の樹木の1種



#### イロハモミジ

- ・ カエデ科 カエデ属
- ・ 落葉高木 10～15mになる
- ・ 雌雄同株 暗紅色の花をつけ、実はプロペラで飛ぶ
- ・ 本州、四国、九州の丘陵帯に分布
- ・ 葉っぱは手のひらのような形
- ・ 木肌はすべすべしている
- ・ 秋にはとてもきれいに紅葉する



#### イヌシデ

- ・ カバノキ科 クマシデ属
- ・ 落葉高木 10～15mになる
- ・ 雌雄同株 花は4～5月、房状に垂れ下がる
- ・ 本州、四国、九州の丘陵帯～産地帯に分布
- ・ 葉っぱのスジがはっきりしている
- ・ 木肌は灰色でなめらかで、たてすじが入っている
- ・ タネはクルクル回転し、ヘリコプターのように風のにりやすい
- ・ 千葉県雑木林を代表する3種の樹木のうちの1種



## クヌギ

- ・ ブナ科 コナラ属
- ・ 落葉高木 8~15mになる
- ・ 雌雄同株 花は房状に垂れ下がる
- ・ 本州(岩手、山形以南)、四国、九州の丘陵帯~産地帯に分布
- ・ 秋になるとドングリの実をつける
- ・ 木肌はたてにゴツゴツしている
- ・ 葉っぱは細長く、まわりがノコギリの刃のようにギザギザ
- ・ 千葉県の雑木林を代表する3種の樹木のうちの1種



## ハリギリ

- ・ ウコギ科 ハリギリ属
- ・ 落葉高木 20~30mになる
- ・ 北海道、本州、四国、九州の丘陵帯~産地帯に分布
- ・ 木肌に針のようなトゲがあり、葉が桐の木に似ていることからこの名前がついた
- ・ 葉っぱが大きく、手のひらのような形をしている
- ・ 若い時の木の肌には鋭いトゲがたくさんあるが、大きくなると少なくなり、古くなるとトゲはなくなり、縦に深い割れ目ができる



## エノキ

- ・ ニレ科 エノキ属
  - ・ 落葉高木 15~20mになる
  - ・ 雌雄同株 葉腋に小さく地味な花をつける
  - ・ 本州、四国、九州の丘陵帯~産地帯に分布
  - ・ 国蝶オオムラサキは幼虫の時に木の葉を食べる
  - ・ 葉っぱは左右が同じではない楕円形で、葉の先の方だけギザギザしている
  - ・ 木肌は厚くて灰色で象の肌のようにざらざらしている
  - ・ 木の実は小さくて赤い褐色
  - ・ 共生の森の奥に大きなエノキがあります。タマムシはエノキの葉をエサにしているため、エノキの植樹をし、その大きなエノキまでのタマムシの飛来する道を作っています。
- そして、国蝶オオムラサキの飛来を目指しています。



## スギ

- ・ ヒノキ科 スギ属
- ・ 常緑針葉樹
- ・ 立派に育ったスギの木の一部は附属園である、美浜幼稚園の園庭にツリーハウスとして生まれ変わりました



## マダケ

- ・ イネ科 マダケ属
- ・ 共生の森で大きくなったマダケは、流しそうめん大会や附属園、子育て支援・教育実践センターで七夕の笹飾りに使用します



## キンラン

- ・ ラン科 キンラン属
- ・ 多年草 30~70cm
- ・ 本州の東北地方南部から九州、朝鮮半島や中国に分布
- ・ 茎先に総状花序をだし、3輪から10輪くらいの花をつける
- ・ 花径は2cmくらいで、花の色は鮮やかな黄色
- ・ 花は平らには開かず上向きに半開し、下から上へ咲きあがる
- ・ 葉は長さ7cmくらいの披針形で6枚くらいが互い違いに生える
- ・ 絶滅危惧Ⅱ類



## エビネラン

- ・ ラン科 エビネ属
- ・ 多年草 地上性のラン
- ・ 北海道西南部から沖縄まで分布
- ・ 花は春咲きで、新芽の展葉とともに高さ30~40cmの花茎を伸長させる
- ・ 準絶滅危惧



## タチツボスミレ

- ・ スミレ科 スミレ属
- ・ 多年草
- ・ 茎は地中で短いですが、成長すると茎は地表に伸びて立ち上がる
- ・ 葉は初めは根出するが、茎が伸びると葉もそこにつくようになり、丸っこいハート型で、薄紫の花をつける



## オオアラセイトウ(ムラサキハナナ)

- ・ アブラナ科 オオアラセイトウ属
- ・ 越年草
- ・ 原産地は中国、江戸時代に輸入されて栽培されたものが野生化
- ・ 2月ごろから成長をはじめ、3月から5月にかけて開花
- ・ 最盛期には50cmくらいまで直立する茎を伸ばす
- ・ 花は茎先につく総状花序で、薄紫色の花弁には細い紋様がある



## ハナイカダ

- ・ カナイカダ科 カナイカダ属
- ・ 落葉低木 別名 ヨメノナミダ
- ・ 雌雄異株
- ・ 花は淡緑色で、4月から5月にかけて葉の中央に数個の花が咲く



## アズマネザサ

- ・ イネ科
- ・ 地下茎で群生
- ・ 葉は15~25cmの被針形で先が次第に細くなり無毛
- ・ 春と秋に一部落葉する



## カラスウリの花

- ・ ウリ科 カラスウリ属
- ・ 本州、四国、九州に自生
- ・ 葉はハート型で表面は短い毛で覆われている
- ・ 雌雄異株
- ・ 花期は夏で、7月~9月にかけての日没後から開花する



## フジ

- ・ マメ科 フジ属
- ・ つる性落葉大木
- ・ 直射日光の差す場所を好む好日性植物
- ・ 花は薄い紫色で夜間は葉をすぼめる



## フキノトウ

- ・ キク科 フキ属
- ・ 多年草 雌雄異株
- ・ 早春の花茎をフキノトウといい、山野に生える春の山菜としてよく知られる



## カブトムシの幼虫

共生の森にはコナラやクヌギなどの落葉樹が多く植えられています。

秋になって落ちた葉や朽木を集めて微生物による分解を待ち、腐葉土を作っていました。

カブトムシはこういった腐葉土の中に卵を産み、次の年まで幼虫のまま冬を越します。



## タマムシ

平地から低山地に分布。エノキやケヤキの高いところを日差しが強い暑い日中に飛翔している。飛翔活動が活発で人が近づくと飛び去って逃げるが多い。

共生の森では、エノキを植樹し、タマムシの飛来を促しています



## コクワガタの雌

頭楯がほぼ台形で大顎は小さい。上翅の点刻はオスよりも大きくやや目立つ。

おもに平地や丘陵地、低山地に生息する。小規模な雑木林でも発生し、都市公園でも見つかることがある。

日中は樹木の根際の土中などに潜っており、夜になるとクヌギ、コナラなどの樹液に集る。灯火にもしばしば飛来する。



## アカボシゴマダラの幼虫

黑白のごまだら模様で、後翅に赤班列がある大きなタテハチョウ。

雑木林の上空や周辺を、時々滑空しながら飛ぶ。幼虫の食草は、関東ではエノキ



## オオカマキリの卵

卵鞘は中に空気を含んでいて断熱効果があり、外気の影響を受けにくいいため、冬の寒さからも卵を守ることができます。



## ナナフシモドキ

細長い体で、その姿は葉や枝などの植物体に擬態している。また、硬い卵殻に覆われた卵も植物の種子に似ている。体長は数cmから50cmを超えるものまでさまざま。日本には15～20種類程度が生息していると言われている。



## ノシメトンボ

アカトンボの仲間では一番大きく、成熟してもさほど赤くならない。はねの先が黒くなっている。

丘陵地や低山地の、水生植物の多い池、水田などで発生する。



## オオアオイトトンボ

光沢の強い緑色をした美しいイトトンボ。アオイトトンボに似るが、本種の方がやや大きい。

水面におおいかぶさった木の樹皮に産卵する習性があるため、木陰のある池でよく発生している。成虫は、池の周辺の林床や、うすぐらい草藪で見かけることが多い。



## オニヤンマの羽化

よく晴れた夏の夜、泥をかぶった幼虫は羽化をするために稲に姿を現しました。体が滑り落ちないように爪を立てた後に、背が割れて薄緑色の成虫が現れます。成虫は頭部と胸部を抜き、一度腹端だけで幼虫の殻に引っかかって逆さ吊りになった後に、起き上がって腹部を抜き翅は、白く縮んだ状態で殻から抜け出すが、体液を送り込むことで伸展し、同時に腹部も伸びます。

朝になる頃には体が固まって黒と黄色の模様ができ、翅も固まって透明になります。

## 小動物



### アオサギの幼鳥

背が高く、脚も長い。飛行姿は長い首をZ字型に曲げ、後方へ脚を伸ばし、大きな翼をゆっくりはばたいて飛びます。

「グワァー」と大きな声。飛行中には「グワツ」や「カァン」とか聞こえる。より短い声で鳴くこともよくあります。



### カワセミ

くちばしは体の割りに長い、魚取りにすぐれた鳥です。

池沼などを見下ろす木の枝に静かにとまっていて、水中の獲物をとったり、水面をかすめて一直線に速く飛んだりしています。

羽色が鮮やかで、翡翠(ひすい)のような体色から、飛ぶ宝石ともいわれ、その美しさは古代から注目されています。

## 共生の森 センサーカメラに映った動物たち



ニホンノウサギ



タヌキ



アライグマ



ハクビシン

## 両生類



### シュレーゲルアオガエル

カエルは水辺に住むものと思われがちだが、樹上での生活に適応していて、水辺の植物の上や森林などに生息する。春から秋まで活動し、冬は温度差の少ない地中で冬眠する。



### アズマヒキガエル

ヒキガエル類は水域依存性の極めて低い両生類である。成体は繁殖の際を除いて水域から離れたまま暮らしており、とりわけ夏季には夜間の雑木林の林床や庭先等を徘徊している姿がよくみられる。体表のイボや皺は空気中における皮膚呼吸の表面積を最大化するためと考えられている



### ヒキガエルの産卵

産卵期は3～4月

産卵場所は池、湿地、溝などの止水域で産卵を行う。

卵は産卵数は約10,000個。卵の直径2～3 mm。卵塊は長いひも状で20 mにおよぶこともある。

卵は6～7日で孵化する。5月下旬～6月上旬に変態し、体長約10 mmの小ガエルなる。

# 森のイベント

「学びと地域交流と癒やしの場」として「植草共生の森」があります。森の豊かな自然に触れ、森の素晴らしさ大切さを体験していただくため、年間を通してイベントを開催しています。

## 5月 田植え

「植草共生の森」には三枚の棚田があり、毎年稲の栽培を行っています。地域の小学校の児童・保護者をお招きして、もち米の苗の田植え体験を行っています。



植草学園の学生ボランティアと一緒に近隣の小学生が田んぼに入り、泥の感触を確かめながら一本一本丁寧に植えています。秋には収穫体験もしています。

## 7月 七夕



「植草共生の森」で立派に育った笹は附属園に届けられ、子どもたちによって、飾り付けられます

## 7月 ホタル観賞会



ビオトープ内の小川の一角に蚊帳（かや）を吊って、大きな鳥かごのような空間を作り、ホタルがその中で飛び回れるようなスペースを作りました  
その中に、学園奥の小川から学生（共生の森人）がヘイケボタルを40匹ほど捕獲してきて蚊帳（かや）の中に放しました。中はこのように、ぐるっと一周できるように木道が作られています



植草共生の森とホタルの生態について、特設のスクリーンに映し出されたスライドを通して学びます

森に入り、蚊帳（かや）の中でホタルを観賞します

草むらの中で光っていたり、蚊帳の中を元気に飛び回ったりしているたくさんのヘイケボタルを観賞することができます

## 7月 流しそうめん大会



## 10月 稲刈り体験

5月に田植えをした羽二重もち米の稲刈り体験をします



附属園の園児と保護者、地域の園児や小学生に、学生ボランティアと教職員により賑やかに行われます。

収穫したもち米を使って、毎年本学園で開催される「ビオトープ祭り」で餅つきを行います。

## 12月 ビオトープ祭り

平成27年1月、学生と教職員の手作りによる水辺ビオトープエリアが披露できる状態になったのを記念して、オープンセレモニー「植草共生の森ビオトープ祭り」を実施しました。祭りには、近隣の幼稚園、保育園、小学校や高齢者介護施設、障害者施設、植草学園大学附属弁天・美浜の両幼稚園等から400人以上の参加がありました。

会場では、餅つき、焼き芋づくり、バウムクーヘンづくり、豚汁の提供等があり、大変賑わいました。

令和2年1月、第6回目となる「植草共生の森ビオトープ祭り」を行い、近隣だけでなく美浜区や緑区などからもたくさんの方が参加され、600人を超える参加者と植草学園の学生ボランティア、教職員で賑やかに開催する祭りになりました。共生の森内の棚田で栽培されたもち米を使用した「もちつき体験」や「バウムクーヘン作り体験」と試食、アツアツの豚汁や焼きたてのピザの提供、「森の工作コーナー」では、森の材料を使ってのトナカイ作りや竹太鼓作り、牛乳パックを活用したブーメラン作りなど盛りだくさんでした。



うえたろもお出迎え



共生も森の竹を使ってバウムクーヘン作り。



共生の森の材料を使って、トナカイ作り



ほくほくの焼き芋、アツアツ豚汁、石窯で焼く焼き立てピザも振舞われます



牛乳パックを使ったブーメランづくり



共生の森の棚で栽培されたもち米を使用し、もちつき体験



ふじづるを使ったブランコやターザンロープ、木登りは大人気です

## 附属園 春・秋 森の遠足



附属園の園児たちが春と秋に共生の森に学園バスに乗って遠足に来ます

お弁当を持って学園バスでやってきた子どもたち、ロタに「今日のお弁当にはからあげが入ってるよ!」「虫がいっぱいいるんだよね!」等と、ウキウキ気分です



池の周りで観察をしたり、田んぼの方へ行ってみたり。森の奥の方までみんなで探検に行く子どもたちも。歩いていくと「この木はなんだろう」というクイズがあったり様々な植物、虫がいたりして「これ何ー?」「もんだい(クイズ)があったよ!」とみんなで気づいたことを口にしながら爽やかな森の散策を楽しみます。大学で待っていてくれた学園ボランティアのお兄さんお姉さんとすぐに仲良くなり「あっちにいきたい」「こっち連れて行って」とリクエスト。落ちていた棒を拾って池で魚釣りを始めたり。



春・秋に共生の森に遠足に来る子どもたち。自然の変化はもちろん、子どもたちの成長も楽しみです。



## 運営部会

植草学園では、学生・生徒・園児の教育・実習活動の場として、また地域の子どもたちの学習、地域住民、多世代交流の場として、子どもからお年寄り、健常者も障がい者も利用できるようにするため、共生の森の整備を進めています。

森の運営、整備、管理を組織的に進めるために運営部会が置かれています。部会は統括責任者を学園理事長とし、専門的指導員として横田耕明氏を委嘱しています。委員は学園の各学校から選出された20数名で構成しており、学生の代表も加わります。また、地域からも、ちばサイエンスの会の理事や千葉県生涯高等学校の卒業生が参加しています。



ため池づくり



散策路の整備



生涯高等学校のOBの方々



防鳥ネット張り



物置の組み立て



おだかけづくり



稲刈り



脱穀作業

## 共生の森人

共生の森人(もりんちゅう)は、大学の教育・保育系ゼミの学生が中心となり森の整備や保全活動を行う学生のグループです。蛍の自生に向けた活動、野草の試食会、セグウェイを使って森の探索をするなど森を楽しんでいます。



クヌギの木の近くに造った落葉だめにたくさん発生しているカブトムシの幼虫が、このままみんな大きく成長できるように、新たに落ち葉を集めました。



エコメッセ参加  
「竹のランタン」「竹の太鼓」「木のトナカイ」を作るブースを出展



バードコールで仲間と勘違いした鳥が鳴き返してきます



木を切り出したときにでた丸太を利用して、子どもたちのちょっとした遊び場と、椅子を作りました



ミニ3輪バギーによる『共生の森』探検ツアー」  
ミニ3輪バギーはミニセグウェイに椅子ともう一つタイヤをつけたもので、多少でこぼこした道でも走ることができます。  
共生の森の散策路を走るにはうってつけです。



桜塩で、つくしの天ぷら



ビオトープの原木から採取したシイタケ

『共生の森人』の活動について詳しくはこちらをクリック

